

革新的サービス「POファイナンス」、年明けにもスタート フィンテックベンチャー、Tranzax 「受注段階でも融資を可能に」

金融とITを融合したフィンテックに期待が高まる中、電子記録債権を活用して中小企業支援に取り組むTranzaxが注目を集めている。売掛金を短期間で現金化できるサービスに加え、受注段階で融資が受けられる革新的なサービスも準備中だ。停滞する中小企業金融にフィンテックで挑む、小倉隆志社長に聞いた。



中小企業の資金問題に 金融イノベーションで挑む

シンクタンクの役員時代に、地方経済を再生する新サービス開発のため全国を回ったTranzaxの小倉隆志社長。日本各地で中小企業の厳しい現状を身をもって痛感した「銀行から中小企業向けの貸し出し額はピーク時の1995年から約30%減少しており、企業の血液ともいえるお金が中小企業に回っていません。しかも、借入時の金利は、大企業にはTIBOR（東京の銀行間取引金利）が適用され低い金利政策の現在は0.1〜0.2%であるのに対し、中小企業には短期プライムレートの1.475%が2009年から変わらず適用されています」

金融のイノベーションで経済を盛り上げるため、頑張っていきたいと話す小倉社長

また、大手企業にサプライヤーが納入した場合、支払いは2〜4カ月後になるケースが多く、資金繰りが厳しいうえ新規事業獲得のチャンスも逃しがちだ。「そこで、売掛金を電子記録債権にするサービスを導入したのです。その債権を当社が設立したSPC（特別目的会社）へ譲渡してもらい、サプライヤーは従来よりも早い期日に低い手数料で現金化できるのです」

Tranzaxが16年7月にスタートした「サプライチェーンファイナンス」というこのサービスは、発注企業にとってもサプライヤーとの信頼関係を強化し、手数料の削減などでサプライチェーン全体のコスト競争力が高められる。Tranzaxは独立系ベンチャー企業として初めて金融庁から電子債権記録機関の指定を受け、本サービスへの登録企業も200社ほどになり稼働企業からも好評だ。

電子債権化を活用し 受注段階から資金を確保

さらに今、最も注目されているサービスが「PO（Purchase Order）ファイナンス」だ。ベンチャー企業や中小企業にとって最も必要なのは成長資金です。しかし、大口の仕事を受注するには資材購入や

設備投資、人員の増強も必要となります。そこで、発注書を電子記録債権化して担保にするのがこの「POファイナンス」なのです。債権の電子化が、引き渡し後に確実に入ってくるお金を担保にすることを可能とし、融資が受けられるのです」

発注を受けた段階で半額程度の融資を受けることが可能になり、納入後に受注の全額を資金化できる。またこのスキームは、銀行にとっても担保付きの融資の貸出機会を創出することになる。受注の段階で融資を受けることができれば、中小企業にとってもまさに革新的である。現在、信用保証協会の保証が受けられる協議が進められ、年明けのサービス開始を予定している。

「金融は社会インフラですから、そこにイノベーションを起こせば、社会全体を良くすることに貢献できると思います」と熱く語る小倉社長。日本発のフィンテックの成果が大いに注目される。



10月の「FIT（金融国際情報技術展）」でも「POファイナンス」を紹介

Tranzaxについて詳しくはホームページ(<http://www.tranzax.co.jp/>)で紹介されている